【R4.10.18 物流ニッポン新聞社掲載記事】

物流担う使命アピール

秋ト協■トラフェス

事故ゼロへ「思いやり運転」カギ

ダンスやライブ盛況

【秋田】秋田県トラック協会（赤上信弥会長）は1日、秋田市でトラックの日のイベント「トラックフェスタ2022～トラックと子供たちの未来へ」を開き、物流でトラックが担う使命の重要性を一般市民にアピールした。（伊藤遥）

会場は同市のポートタワーセリオンで、屋外開催は3年ぶりとなった。歩行者ファーストの宣言や絵画コンクールの表彰式を行ったほか、「はたらくクルマ大集合」と題して、各種トラックや高所作業車、パトカー、白バイなどへの体験試乗コーナーを設けた。更に、キッチンカー5台が集まり、白神ねぎらーめんやきりたんぽなどを販売。子どもも安全免許証の発行、パパヘラアイスや綿菓子のプレゼントコーナーも開設した。

また、秋田県立新屋高校吹奏楽部の演奏やダンススタジオ「S．T．Rays」のダンスパフォーマンス、秋田県立男鹿海洋高校郷土芸能部のなまはげ太鼓、秋田県出身のラッパー羅漢さんのライブなどで会場を盛り上げた。

羅漢さんのライブで盛り上がる会場

開会に先立ち、トラックによる交通安全パレードを実施。「みんなで目指そう！交通事故『ゼロ』」と記された横断幕を掲げたウィング車やトレーラ、ダンプカーが、大町から秋田駅前、会場のポートタワーセリオンまで走行し、市民に交通安全を呼び掛けた。

信号機がない横断歩道で停車し、歩行者の横断を優先させる歩行者ファースト推進宣言では、赤上会長が「事故をなくすキーワードは『思いやり運転』だ。ドライバーには周りに気を付けながら運転して欲しい」とあいさつ。秋田県警本部の阿部清喜交通部長は「秋ト協や交通安全に携わる関係団体・機関、地域ボランティア、住民と協力し、日本一の歩行者ファーストを推進し、安全・安心な秋田県にする」と宣言した。

ライブ中のトークで羅漢さんが「これまでは、自宅やお店に物が運ばれてくることが当たり前だと思っていたが、トラックと関わるようになってどれだけありがたいことかを知った。運送業界は生活する上で欠かせないものだ」と述べた。最後は、ウィング車の積荷スペースをステージにして、2020年に秋ト協のイメージソングとして作曲された「ラストワンマイル」を新屋高校吹奏楽部の演奏とS．T．Raysのダンスに合わせて羅漢さんが熱唱した。

受賞18作品を表彰

絵画コン「夢のトラック」テーマ

【秋田】秋田県トラック協会は1日、絵画コンクールの表彰式を開いた。「夢のトラック」をテーマに描かれた全352点の応募の中から、最優秀賞、協会長賞、佳作、努力賞の18作品を選出。赤上信弥会長が、受賞者一人ひとりに賞状を手渡した。最優秀賞には秋田市立八橋小学校の佐藤元香さんの作品「みなみのしまにレッツゴー」が選ばれた。

応募作品をラッピングしたトラック

赤上氏が「300点以上の夢が詰まった作品が集まった。トラックが荷物を届けていることを応援して欲しい。最後のワンマイルに思いを込めて走りたい」とあいさつ。最優秀賞を獲得した佐藤さんは作品について、「最優秀賞を取れてとてもうれしい。クリスマスツリーのヤシの木を見て欲しい」と話した。

集まった作品は、六郷小型貨物自動車運送（近藤哲泰社長、秋田県美郷町）のトラックの車体に全てのラッピング。今後は、作品応募者の夢を乗せて全国を走る予定だ。（伊藤遥）